

平成16年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ムロアジ類

学名 *Decapterus spp*

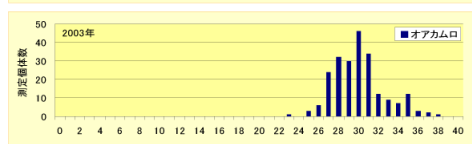
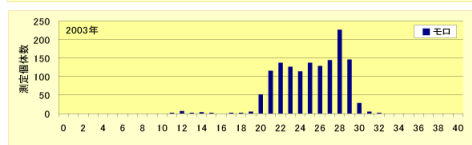
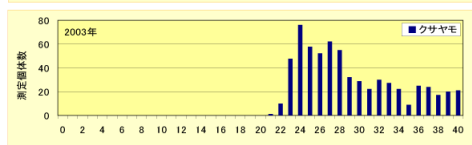
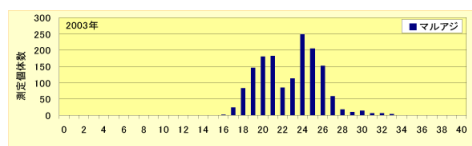
系群名 東シナ海

担当水研 西海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 5～6歳程度
成熟開始年齢: 不明
産卵期・産卵場: 春～夏季に産卵する魚種が多い、東シナ海の広い範囲で産卵するが魚種により異なる
索餌期・索餌場: 不明
食性: 動物プランクトンを主体に捕食
捕食者: 大型魚類や哺乳類

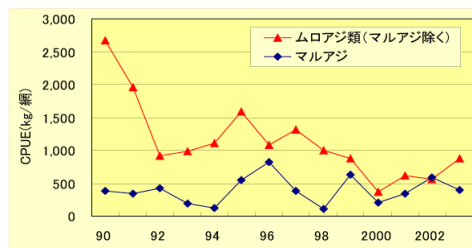
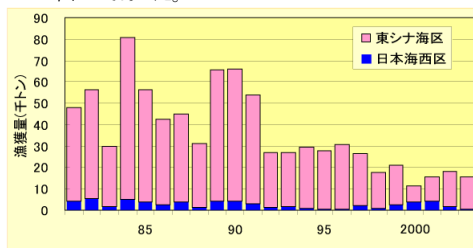


漁業の特徴

本資源は大中型まき網および中型まき網により漁獲されるものがほとんどであり、東シナ海区(福岡県～鹿児島県)で見ると、ムロアジ類の漁獲量のうち大中型まき網が約7割、中型まき網が約2割をしめる。東シナ海区で多く漁獲されるムロアジ類は、マルアジ、ムロアジ、モロ、クサヤモロ、オアカムロ、アカアジである。中国もムロアジ類を多く漁獲している。

漁獲の動向

東シナ海区の漁獲量は1984年の76千トン进行ピークに一度減少したものの、1989年と1990年に60千トンを超える漁獲量があった。その後減少し続け、2000年は10千トンを下回る漁獲量であったが2001年以降やや増加した。日本海西区は多くても6千トン程度の漁獲量である。1990年代半ばに漁獲量が1千トンを下回っていたが、1997年以降やや増加傾向にある。日本海北区は、200トン以下の漁獲量である。東シナ海区と日本海西区の2003年の合計漁獲量は約15千トンであった。



資源評価法

魚種が複数含まれ、現在のところ資源量を推定するに至っていない。資源水準・動向は、大中型まき網の漁獲量とCPUE(漁獲量/有効努力量)で判断した。

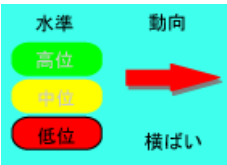
資源状態

大中型まき網のCPUEをみると、1990年以降、ムロアジ類(マルアジ除く)は1995年をピークに2000年まで減少し続けたが、2001年以降は2000年よりもやや増加した。一方、マルアジは1996年と1998年に小さなピークがあるものの、小刻みな変動を繰り返している。

管理方策

東シナ海で漁獲されるムロアジ類のうち約7割を占める大中型まき網のCPUEを用いてABCを算定した。この海域の漁獲量、大中型まき網のムロアジ類・マルアジのCPUEの相乗平均値を資源の指標値とした。この指標値の変化に合わせて、漁獲量を抑えることで資源の回復をはかることを目標とする。

	2005年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	12千トン	0.8C2003	-	-
ABCtarget	10千トン	0.8ABClimit	-	-



資源評価のまとめ

- ムロアジ類には複数種が含まれ、種毎の生物学的特性および資源指標がないため資源量を推定することが困難

管理方策のまとめ

- 漁獲量や、大中型まき網のCPUEを基にした資源量指標値の変化に従い、資源水準が低位であるムロアジ類の漁獲量を抑えることにより、資源回復を図るべきである
- 外国の漁獲量も考慮することが必要である

資源評価は毎年更新されます。